

「価値デザイン社会」実現に向けた検討の論点整理（案）

2018年12月
内閣府知的財産戦略推進事務局

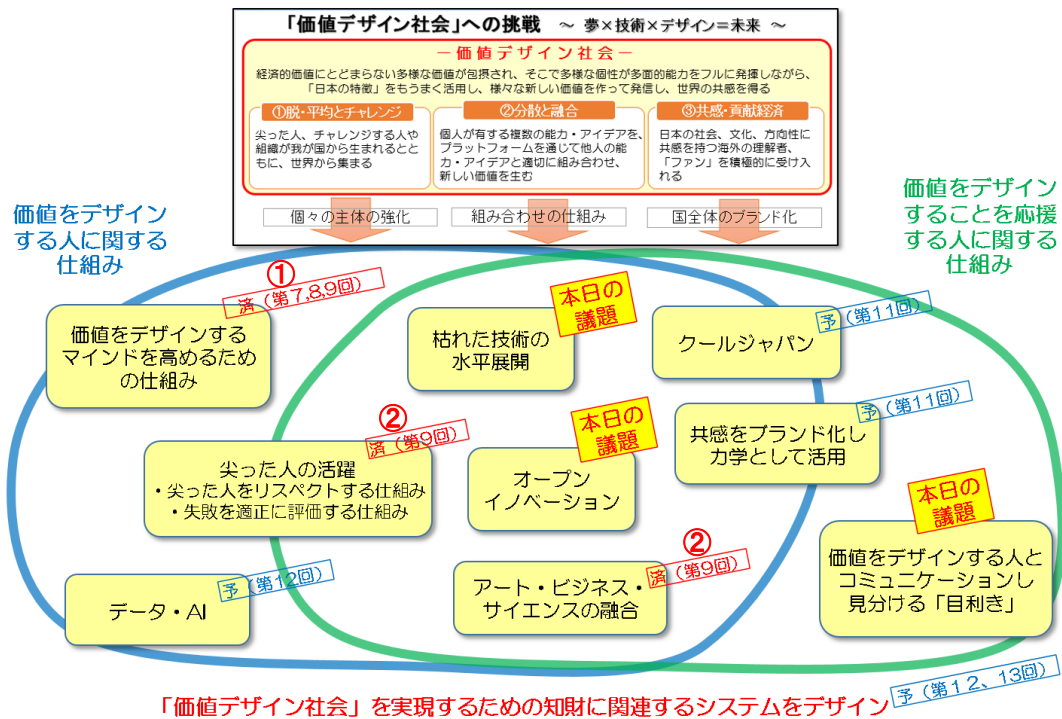
○「価値デザイン社会」とは（平成30年6月12日報告書）

- ・ 経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る
- ・ 未来の式「夢×技術×デザイン＝未来」
- ・ 三本柱：
 - ・ 「脱・平均とチャレンジ」： 尖った人、チャレンジする人や組織が我が国から生まれるとともに、世界から集まる
 - ・ 「分散と融合」： 個人が有する複数の能力・アイデアを、プラットフォームを通じて他人の能力・アイデアと適切に組み合わせ、新しい価値を生む
 - ・ 「共感・貢献経済」： 日本の社会、文化、方向性に共感を持つ海外の理解者、「ファン」を積極的に受け入れる

○「価値デザイン社会」実現に向けた検討の全体像

下図のように各テーマを検討

- ・ 価値をデザインする人に関する仕組み
- ・ 価値をデザインすることを応援（リソース提供）する人に関する仕組み
- ・ 価値をデザインする人及びこれを応援する人の双方に関する仕組み



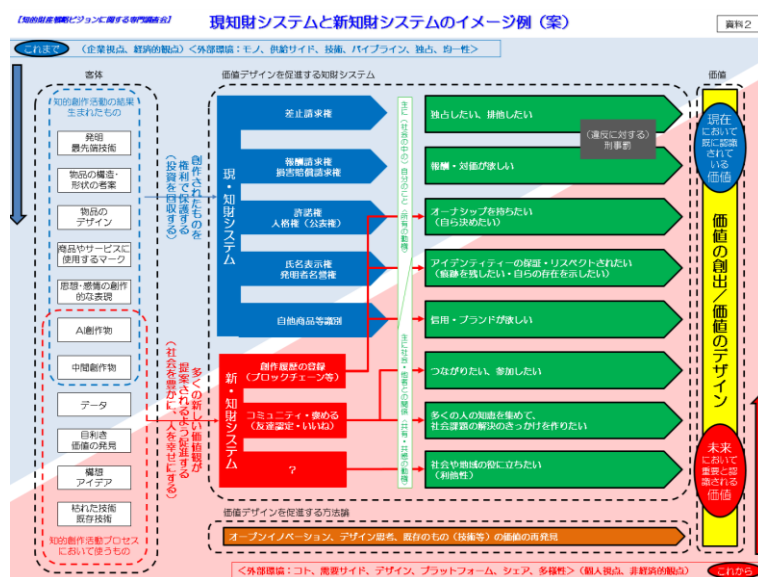
「価値デザイン社会」を実現するための知財に関連するシステムをデザイン 予（第12、13回）

①価値をデザインするマインドを高めるための仕組み

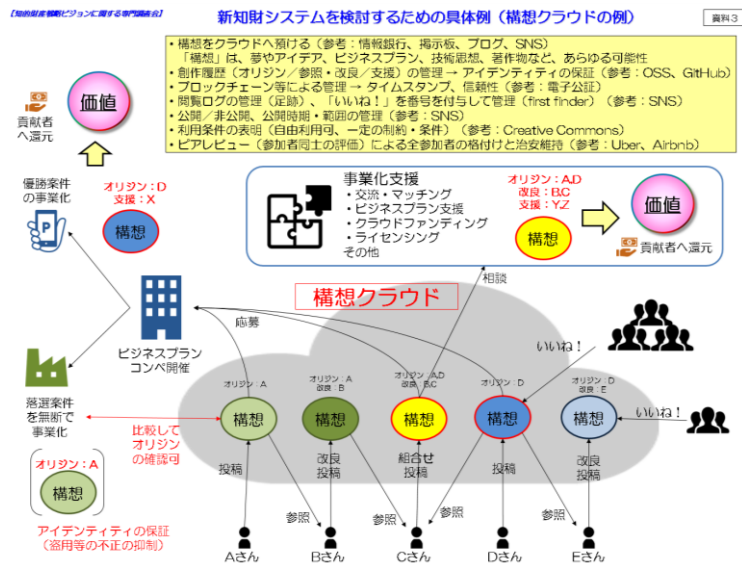
- ・何らかの方法でオリジンを証明できる仕組みが必要
- ・複数の人が関与して価値デザインをする場合、どのようにプロセスの明確化や適切な利益配分を行えばよいか
- ・技術の話だけではなく、未来の式（夢×技術×デザイン＝未来）が肝になる
- ・デザインは、多くの人々が欲しがるとなるとデザインから、意思をあらわすためのデザインに移っていくので、「脱・平均とチャレンジ」の実現が重要。
- ・夢やアイデアや技術は次々と組み合わせられるのが良く、ソフトウェア世界のGitHubのようなものが必要。つまり、Gitのように夢やデザインをレポジトリに入れて、それをベースに自由に組み合わせることで次々とエボリューションする仕組みがあれば、その知的財産の管理はやりやすくなるし、エボリューションも起こりやすくなる。
- ・知財などの無形物にお金が支払われること
- ・法律というより、ブロックチェーンなどの技術による世界が重要に。
- ・コミュニティベース、地域ベースで社会課題の解決などの価値創造。
- ・ほめるプラットフォームがあるとよい。

(現知財システムと新知財システムのイメージ例)

- ・主に独占や対価のような「所有」を動機とする、企業視点や経済的観点から構築されてきた現行システムだけではなく、例えば創作履歴（貢献者の見える化）や信用などのような「共有・共感」を中心にした、個人視点や非経済的観点から新たなシステムへ
- ・法律もデザインすることが必要。何か問題があって、それについてはこうしよう、ではなくて、全体像をデザインする必要がある。

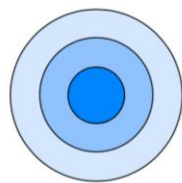


・具体例（構想クラウド）



② 尖った人の活躍

出来た社会を回す人
(大企業・官僚機構)



均等に万遍なく
出来る人材

未来を変える人



全く枠には収まらないが
なにかに突き抜けている人材

(第9回安宅委員資料より抜粋)

- ・尖った人をリスペクトする仕組みが必要ではないか。
- ・新たな価値を創造する尖った人やチャレンジする人を見つけ・増やし・育てることが重要である。
- ・尖った人やスタートアップ企業がチャレンジしやすい状況を作るために、失敗を恐れず何度でも挑戦できること、失敗を適正に評価すること、周りも時間をかけて見守ることが重要である。
- ・真に突き抜けた人は若い時から現れる。
- ・若者に足りない要素として信用、コネ、カネが挙げられるので、これらを新しい価値をデザインしようとする若者へを与えるとよい。
- ・尖った人にうまくメンターをつけることが重要。
- ・尖った人を桁違いに増やすことにより、「分散と融合」や「共感・貢献経済」についても加速するのではないか。

(アート・ビジネス・サイエンスの融合)

- ・アートとサイエンス、デザインとテクノロジーを融合して実践できる人材を育成すること
- ・芸術系の大学でテクノロジーも学ぶべき。テクノロジーも必要という意識を向上させることが重要。
- ・大学と専門学校とが協力し専門職大学をつくれぬか。

以上